

# 田川市立学校校区再編基本方針(案)についての パブリックコメント結果をお知らせします

田川市教育委員会では、7月に策定した「田川市立学校校区再編基本方針(案)」について、パブリックコメント(広くみなさんからの意見を募集し、その意見を考慮すること)を行いました。その結果、提出のあった主な意見やその意見に対する市教育委員会の見解について、概要をお知らせします。



- 意見募集期間 7月1日～22日
- 意見提出者数 52人
- 意見件数 62件
- 多く提出のあった意見

意見(概要)	件数	教育委員会の見解
効果的で活力ある学校運営のため、2校または3校での再編がよい。	13	学校数については、通学距離や通学路の安全性、将来的な小学校区の再編において不都合が生じないように配慮しながら、総合的に検討し、校区再編計画の中で示す予定です。
さまざまな人や考え方に触れることは、社会人となる前段として大切である。 田川の子どもたちにとって、何が本当に利点になるのかを十分審議して、最良の再編としてほしい。	9	今後、具体的な再編計画策定の過程で、田川の子どもたちにとって、何が利点となるのかを十分に検討していく予定です。
通学区域の広がりや自転車通学も考えられる。通学路整備、交通事情および不審者対策を推進してほしい。 通学距離と安全性を考えると通学方法の検討が必要である。	8	交通事情を考慮の上、通学距離、通学時間が児童生徒に与える影響、児童生徒の安全、学校の教育活動への影響などを考慮して、対策を検討する予定です。

## ●その他の主な意見

意見(概要)	件数	教育委員会の見解
適正規模校では、小規模校のように子どもたちに対して目が届きにくいのではないかと。不登校傾向の子どもが増えている。そういった子どもたちが大きな不安を抱えないようにすることが大切である。	4	適正規模校では、一定以上の職員数が確保できるため、学校全体での組織的な指導体制を組みやすく、また、学年別・教科別の教員同士で学習指導・生徒指導などについて相談・研究・協力などが行いやすくなると考えられます。その効果として、子どもたちに対してしっかりとかわっていくことは可能であると考えられます。また、同様の理由により「不登校傾向」の子どもたちに対しても、配慮することが可能であると考えられます。
学力の課題からすれば、多くの人数で学び合い、鍛え合いも期待されるが、思春期だからこそ少人数の中で、学校や家庭での支援をすることが有効ではないか。	1	上記と同じ理由で、きめ細かな指導、対応が可能になると考えられます。
再編計画は理解するが、校区住民への時間をかけた丁寧な説明が何より大切である。	3	具体的な再編計画を策定する段階で、校区説明会などを開催し、各校区のみなさんや保護者のみなさんの理解を得ていく必要があると考えます。
中学校数が減少するのであれば、全校で公平に自校給食を実施するべき。	2	中学校給食については、これからの検討課題です。

提出された意見については、今後、別に検討が必要な中学校給食に関するものを除き、「田川市立学校校区再編基本方針(案)」で対応できるものと判断し、原案のとおり策定することに決定しました。

## ●提出意見と市教育委員会の考え方を公表しています

掲載した意見の他にも、多数の意見が提出されました。これらは、市ホームページ(「暮らしのガイド」欄にある「人権・教育」のボタン)か学校教育課(市民会館内)窓口、市立小中学校および市役所市民相談窓口でご覧になれます。